

**竟成小学校**

(報告者及び宛名等は省略)

**香取市立竟成小学校地域検討会議検討結果報告書**

平成23年8月22日

香取市学校等適正配置計画・実施プランにかかる香取市立竟成小学校地域検討会議の検討、協議が終了しましたので、「香取市立小学校再編にかかる地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

会議において、「学校の適正規模」「小中連携教育の推進」「学校の適正配置」の観点から、実施プランCブロック、Dブロック案について意見を求めたところ、実施プランにある「大根・大崎・長山地区を分割して福田小へ加える。」ことについて、委員中より「なぜ、遠くにある福田小なのか、納得できる説明を」との問いに対し、事務局から、「小中連携教育を推進するためには小・中学校が近いほうが良いこと、福田小は、施設面で成田国際空港周辺対策交付金が充てられ、空調設備が完備されているためである。」

また分割統合の理由については、「中学校進学時、中学校区が違うため分かれて進学することを解消するためである。これは、プランを作成するなかで、香取市全体の地域代表、市民代表で組織した香取市学校等適正配置検討委員会で、検討、審議し、小中連携を推進するとの判断基準をもとにして決定したものです。」との説明がありました。

これに対し、保護者代表委員から「小中連携教育を推進するうえで、佐原第三中に近い福田小を残すとのことですが、この先少子化がすすみ佐原第三中が他へ統合された場合、福田小と統合する意味がない。」また空調設備については「世の中の状況が変わって、節電の時代にそんなに優先順位の高い問題ではない。」との意見がありました。

また、地域代表委員から「大根・大崎・長山地区は、中学校が佐原中、佐原第二中、佐原第三中と進学先が変わり、市の教育行政に翻弄されてきた。小中連携教育を推進するならば、将来、栗源中と統合も考えられる佐原第三中がどこまで存続できるかの見通しがつかないと、小学校の統廃合はあり得ない。」

「現実問題として、大根・大崎・長山地区から佐原第三中へ行っている生徒は少なく、佐原中か佐原第五中という現状ではないか。この実情を踏まえて、プランを立てるべきではないか。」

あるいは、「学校の施設・利便性を考えれば小中連携については、現在のままで竟成小と佐原第五中の連携で可能ではないか。」

また、「現在の竟成小の面積・施設・校舎を福田小と比較しても、竟成小の方が用地面積は広く、施設面も新しい。福田小へ再編することで、児童の学習環境が今よりも悪化する。」といった意見がありました。

学校適正規模については、実施プランにある「Cブロックでは福田小・神南小に竟成小(大根・大崎・長山)の一部が加わることにより、許容規模校(6学級・120人以上)になる。」

また、「Dブロックでは東大戸小に竟成小(与倉・観音・鳥羽)の一部が加わることで、クラス替えができる、理想的な適正規模校となる。」とあるが、これに対して

地域代表委員から「統計上、竟成小は許容規模(120人)を平成27年ぐらいまでは、上回っているのに統合が必要か。中学校の再編が行われた後でも良い。」また、「神南小と福田小の2つだけの統合を検討してからでもよい。」

資料：地域検討会議 検討結果報告書

保護者代表委員から「現状が一番だが、どうしても統合しなければならないのであれば、小さいところに詰め込むより、福田小・神南小を竟成小に統合すべきである。」との意見がありました。

以上の意見をふまえ、香取市学校等適正配置計画・実施プランの提案に対する竟成小学校地域検討会議の検討、協議結果として、委員全員の賛意により、「現時点では、再編統合は時期尚早である。」との結論に達しましたことを報告します。

**福田小学校**

(報告者及び宛名等は省略)

**香取市立福田小学校地域検討会議 検討結果報告書**

平成25年3月12日

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案Cブロックについては賛成とする。

2. 検討経過

平成24年 8月28日	地域説明会 (福田小学校)	
平成24年11月 6日	地域検討会議に係る準備会	実施プランについて
平成24年12月20日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立並びに各地区等の意見集約を行うことを決定
平成25年 2月 6日	理事会	
平成25年 2月15日	第2回地域検討会議	各委員の意見表明
平成25年 3月12日	理事会	地域検討会議報告書のまとめ

3. 検討の概要

実施プランの再編ブロック案Cブロックでは、神南小学校と竟成小学校の一部（大根・大崎・長山）は福田小学校に統合し、許容規模の120人を確保するとしている。また、福田小学校と佐原第三中学校のみ、成田空港周辺対策交付金による学校設備、光熱費の優遇措置が講じられている。竟成小学校地域検討会議では、既に「現時点では、再編統合は時期尚早である。」との検討結果を教育委員会へ報告している。神南小学校は、地域検討会議でこの再編案に反対であるとの方向で協議が進んでいるとの報告があった。このような中、再編ブロック案Cブロックについて検討協議を行った。

福田小学校の児童数は減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予測される。また、神南小学校も同様に減少傾向にあり、ともに複式学級が危惧される。仮に2校の統合で当面の間は、市の許容規模は確保されるが、いずれ少子化の影響で確保できなくなる。このため統合しても再統合することも考えられる。

学校施設等の状況では、統合に伴う学校施設の充実を望む。

各地区の意見やPTAの意見は、福田小学校に統合することとしている実施プランに賛成であり、統合はすべきとしている。

以上の事から、今回の再編ブロック案Cブロックについては賛成とする。

ただし、竟成小学校や神南小学校の検討結果を受け、再編ブロック案の見直しを行うときは、佐原第三中学校の小規模化も深刻な問題であるので、小中学校共に検討することを要望する。

**神南小学校**

(報告者及び宛名等は省略)

**香取市立神南小学校地域検討会議 検討結果報告書**

平成25年2月26日

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案Cブロックについては反対とし、神南小学校は、当面の間このまま存続させることとする。

2. 検討経過

平成24年 7月20日 地域説明会  
平成24年10月18日 地域検討会議に係る準備会 実施プランについて  
平成24年11月29日 第1回地域検討会議（地域検討会議の設立並びに地域アンケート調査実施の決定）  
平成24年12月12日 理事会（地域アンケートの内容について）  
平成24年12月17日～  
平成25年 1月11日 地域アンケート調査実施  
平成25年 2月 5日 理事会（地域アンケート調査結果について）  
平成25年 2月 7日 第2回地域検討会議（地域アンケート調査結果の報告並びに各委員の意見表明）  
平成25年 2月26日 理事会（地域検討会議報告書のまとめ）

3. 検討の概要

実施プランの再編ブロック案Cブロックでは、神南小学校と竟成小学校の一部（大根・大崎・長山）は福田小学校に統合し、許容規模の120人を確保するとしているが、竟成小学校地域検討会議では、既に「現時点では、再編統合は時期尚早である。」との検討結果を教育委員会へ報告している。このような中、再編ブロック案Cブロックについて検討協議を行った。

神南小学校と福田小学校の児童数は共に減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予測され、複式学級の設置が危惧される。

学校施設等の状況では、福田小学校と比較すると神南小学校は、学校敷地が広く、駐車場も概ね確保されており利便性に優れている。また、学校を取り巻く自然環境も素晴らしく、今後もこの環境は残していきたい。福田小学校は、成田空港周辺対策交付金による学校設備、光熱費の優遇措置が講じられているとしているが、学校再編の判断材料にはならないと考える。

小中連携教育では、佐原第三中学校は、神南小学校と福田小学校のほぼ中間に位置しており、福田小学校へ統合する理由がないと史料する。

アンケート結果では、福田小学校への統合に反対が56.7%で、小学生以下のいる世帯においては69.7%とさらに傾向が強まっている。

また、アンケートのなかには、佐原第三中学校へ統合し、小中一貫校を設置するという意見も多くあったが、二校の統合では佐原第三中学校の現状は変わらず、同中学校の小規模化が進行していく。このような状況のなかで、教育委員会は、佐原第三中学校を小中一貫校に整備するには、大規模な増改築が必要となり、今回の再編計画では大規模な増改築は想定していないとしている。

以上の事から今回の再編ブロック案Cブロックについては賛成できず、当面の間は、神南小学校を存続させることとする。

**新島小学校 大東分校**  
(報告者及び宛名等は省略)

**香取市立新島小学校大東分校 学校再編に係る検討結果報告書**

平成24年3月8日

香取市学校等適正配置計画実施プランに掲げる再編ブロック案（Eブロック）について検討協議を行い、その結果については下記のとおりですので報告します。

記

- 1 検討結果 香取市学校等適正配置計画実施プランどおり統合することについては、安全な通学手段（スクールバス等）を確実に確保することを前提に同意する。  
統合の時期については、平成25年4月を目途とする。
- 2 検討経過 平成23年11月15日 地域説明会  
平成24年 1月24日 保護者説明会  
1月29日 市和田区地域説明会  
2月26日 附洲新田区地域説明会
- 3 検討内容 ①大東分校児童数の推計（～平成29年度）について  
②指定学校の変更について  
③通学手段の確保について  
④統合の時期について

4 検討協議の概要

今後の児童数の推計を見ても、大東分校は概ね10人程度で推移していく。指定学校の変更を考慮すると、既に、市和田区からは指定学校の変更をし、新島小学校へ通学している児童がおり、これを踏まえて推計をすると、平成25年度・平成26年度には入学者がないこととなる。これにより学校の規模がますます小規模化し、学校運営が困難になることが予想される。

統合の時期は、「教育の機会均等」や「教育水準の向上」を考えれば、少しでも早い統合が望ましいことから、平成25年4月を目途に進めてもらいたい。

また、通学手段（スクールバス等）については、確実に確保することを統合の条件とする。

## 湖東小学校

(報告者及び宛名等は省略)

## 香取市立湖東小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成25年5月14日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立湖東小学校地域検討会議の検討協議が終了しましたので、「香取市立湖東小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を下記のとおり報告します。

## 記

## 1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プラン再編ブロック案の湖東小学校と新島小学校が統合することについては、対等統合とすることで賛成とし、子どもたちのためにも速やかに統合に向けた協議を開始されたい。また、教育委員会は、保護者の統合に伴う不安を解消することに努められたい。将来的には、北佐原小学校を含めた小中一貫校の設置を望む。

## 2. 検討経過

日付	名称	内容等
平成23年11月24日	地域検討会議に係る準備会	実施プランについて
平成24年 3月 2日	保護者説明会(湖東小学校)	
平成24年 5月30日	第2回地域検討会議に係る準備会	学校再編の現状と課題
平成24年 7月12日	地域説明会(湖東小学校)	
平成24年 8月22日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立について
平成24年10月16日	第2回地域検討会議	学校再編に係る検討事項及び検討方法について
平成24年11月21日	第3回地域検討会議	学校再編について
平成25年 1月19日	本津地区説明会(本津公民館)	
平成25年 1月20日	三島地区説明会(三島公民館)	
平成25年 2月11日	境島地区説明会(境島公民館)	
平成25年 2月16日	大島地区説明会(大島公民館)	
平成25年 2月27日	第4回地域検討会議	学校再編について
平成25年 3月16日	八筋川地区説明会(八筋川公民館)	
平成25年 3月23日	保護者説明会(湖東小学校)	
平成25年3月27日～ 平成25年 4月 9日	PTA アンケート調査の実施 (PTAが実施)	
平成25年 4月 7日	大島地区説明会(大島公民館)	
平成25年 4月17日	第5回地域検討会議	PTA アンケート調査結果の報告並びに各委員の意見表明と検討結果のとりまとめ
平成25年 5月14日	理事会	地域検討会議の検討結果報告書のまとめ

### 3. 検討の概要

実施プランの再編ブロック案 E ブロックでは、新島小学校、湖東小学校、大東分校、利北分校の 4 校を統合し、市の許容規模の 120 人を確保し、新島中学校と小中連携教育を推進するとしている。E ブロックの現在の状況は、平成 25 年 4 月には大東分校が本校の新島小学校へ統合となった。これらのことを含めて適正規模、適正配置について検討協議を行った。

湖東小学校の児童数は、平成 24 年 4 月現在 60 人で、複式学級があるが、増置教員で解消している状況である。このため、増置教員本来の業務は、他の教員が負担し合うことになり、教員一人一人の負担が増え、この影響は子どもたちにも及ぶことが懸念される。平成 25 年度は、複式学級を複数設置することになり、増置教員の対応でも解消されないため、講師を雇い学級担任を支援し、複式学級を解消している。平成 30 年度の児童数は 27 人に減少すると推計しており、学校の小規模化が益々進行し教育環境の低下が危惧される。

小規模校のメリットである「きめ細かな指導」や「異学年の交流」などよりも、「限られた人数の中での交友関係で、切磋琢磨する機会が少なくなる」や「コミュニケーション能力が育ちにくい」などのデメリットを解消することが必要であり、多くの交友関係を築き、互いに競い合い、そして認め合い、社会性を身に付けることが大事である。

湖東小学校 PTA が児童の保護者へ実施した「学校再編に関するアンケート」の集計結果では、「統合した方が良い」が 54%、「どちらかと言えば統合した方が良い」が 17%であり、また「存続した方が良い」が 5%、「どちらかと言えば存続した方が良い」が 7%であった。この結果から、保護者の 70%以上の方が統合した方が良いと考えている。学校統合については、保護者の意見が重要であり、このアンケート結果は尊重されるべきものである。

明治 9 年に開学した伝統ある湖東小学校が、統合により地域からなくなることで、地域の疲弊に繋がるのではないかと危惧される意見もあるが、小学校の小規模化は切迫した状況であることから、将来ある子どもたちの教育環境を優先して考えざるを得ない。

湖東小学校と新島小学校が統合しても平成 30 年度には、106 人となり市の許容規模の 120 人を下回ることから、北佐原小学校を含めた統合が望まれる。これについて、教育委員会では、北佐原小学校を含めた統合には時間がかかるとしている。その間も湖東小学校の児童数は減少することから、現段階でできる統合を優先せざるを得ない。

以上の事から、子どもたちのより良い教育環境を実現するため、湖東小学校と新島小学校の統合については賛成とし、統合に際し対等統合としていることから校名、校歌、校章などは見直しの協議を行うことを条件とする。また、統合に伴う児童のメンタルケアや通学方法などの不安について教育委員会は、保護者との話し合い等を含め、不安解消に努めていきたい。

なお、北佐原小学校を含めた小中一貫校の早期実現を要望する。

## 新島小学校

(報告者及び宛名等は省略)

## 香取市立新島小学校学校再編に係る地域検討会議検討結果報告書

平成25年10月25日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る学校再編を検討協議するため、香取市立新島小学校地域検討会議を立ち上げ、湖東小学校との統合について検討協議を行いました。その検討結果について、下記のとおり取りまとめましたので、香取市立新島小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱第2条の規定により提出します。

## 記

## 1 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランに掲げる新島小学校と湖東小学校の統合は賛成とする。

## 2 検討経過

平成25年5月24日	地域検討会議準備会	・香取市学校等適正配置計画実施プランについて ・地域検討会議の運営について ・湖東小地域検討会議検討結果報告
平成25年6月25日	第1回地域検討会議	・地域検討会議の設立 ・地域検討会議設置要綱の制定 ・役員の選出 ・今後の進め方について
平成25年6月28日	保護者説明会	
平成25年7月26日	地区説明会 (市和田・附洲新田)	
平成25年7月28日	地区説明会 (磯山)	
平成25年8月10日	地区説明会 (扇島第2・与田浦)	
平成25年8月17日	地区説明会 (扇島第1)	
平成25年9月26日	第2回地域検討会議	・地区説明会の結果報告 ・地域検討会議意見集約
平成25年10月21日	地域検討会議理事会	・地域検討会議検討結果報告書作成

## 3 検討協議の概要

香取市教育委員会が平成22年7月に策定した「香取市学校等適正配置計画実施プラン」に基づき、新島小学校と湖東小学校が統合することについて、地域検討会議を組織し検討協議を行った。

湖東小学校地域検討会議では、「対等統合とすることで賛成とし、子どもたちのためにも速やかに統合に向けた協議を開始されたい。」と検討結果がまとまっている。

新島小学校地域検討会議では、この結果を受け、対等統合に対し、「学校名」「校歌」「校章」の扱いを含め湖東小学校との統合について、地区説明会や保護者説明会を行い、湖東



小学校の現状などを説明し、地域住民に周知を図ってきた。

湖東小学校の児童数は、今後急激に減少し、二学年を一学級に編制する複式学級が平成27年度から常態化する見込みである。この状況は、教育環境として望ましい姿ではなく、次代を担う子どもたちには等しく教育を受ける機会が与えられなくてはならない。学校統合することで、湖東小学校の複式学級が解消され、また新島小学校でも児童数が増え、多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合い、切磋琢磨する機会が増えるなど、現在の教育環境を更に向上することができる。

地区説明会や保護者説明会においても、参加者は多くなかったもののその中では、「湖東小学校との統合は賛成」とする意見が多く、概ね統合することに理解は得られていると考えられる。新島小学区として、統合後、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう地域全体で協力することが大事である。

平成27年度までに湖東小学校との学校統合を実現するためには、両校の代表者で組織する代表者会議を早急に立ち上げ、学校統合に係る基本的事項の「学校名」「校歌」「校章」などは円滑な話し合いの下に検討協議し、決定することが望まれる。

学校統合は、子どもたちの教育環境をより良くするために行われるべきであり、これまでの地域の歴史や伝統も重要なことではあるが、その歴史や伝統を継承しつつ、新たな学校として歴史や伝統を地域と学校が連携して築き上げることの方が重要である。

教育委員会は子どもたちの交流事業や保護者とよく話し合い、円滑な学校統合ができるよう十分配慮すること。

また、将来的なビジョンとして北佐原小学校との統合も望まれる。

## 大倉小学校

(報告者及び宛名等は省略)

## 香取市立大倉小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成26年4月10日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立大倉小学校地域検討会議の検討、協議が終了しましたので、「香取市立大倉小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

## 記

## 1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案の大倉小学校が津宮小学校に統合する事については反対とする。将来を見すえ大倉小学区としては、大規模な統合を望む。また、香取市及び教育委員会は子どもたちの安全安心の確保と、保護者の抱く不安の解消について対処することを要望する。

## 2. 検討経過

期 日	内 容	備 考
平成25年 5月25日	区長会説明	区長 10名
平成25年 5月29日	PTA説明	保護者40名
平成25年 6月 6日	大倉小学校地域検討会議 準備会	学校再編について
平成25年 7月18日	第1回大倉小学校地域検討会議	地域検討会議設立
平成25年 8月25日	第2回大倉小学校地域検討会議	アンケートについて
平成25年10月 8日	第3回大倉小学校地域検討会議	アンケートについて
平成25年11月21日	第4回大倉小学校地域検討会議	アンケートについて
平成25年12月20日～ 平成26年 1月20日	大倉小学校学校再編に係るアンケート	
平成26年 2月25日	第5回大倉小学校地域検討会議	アンケート結果、意見集約
平成26年 3月24日	第6回大倉小学校地域検討会議	検討結果報告書

## 3. 検討の概要

香取市学校等適正配置計画実施プランの大倉小学校が津宮小学校に統合することについて、また、水郷団地地区と大倉新田地区の就学先について、地域住民の代表者・保護者の代表者・学校関係者等で大倉小学校地域検討会議を組織し検討協議を行った。

大倉小学校の学校再編についての地区説明会は前年度に行われており、その中では、大倉小学校が津宮小学校に統合する事について、賛成する声は無かった。しかしながら大倉小学校は少子化による児童減少で平成31年には複式学級が2クラスとなる推計である。今の大倉小学校の子どもたちに行き届いた教育は素晴らしいが、教育環境をより良くするためには、何らかの形で小学校が統合し、小規模化を解消する必要がある。

津宮小学校でも児童数は減少し、大倉小学校より先に複式学級が2クラスとなる事が推計されている。仮に教育委員会の計画通りに大倉小学校と津宮小学校が統合したとしても平成31年には児童数が100名を下回る事となる。

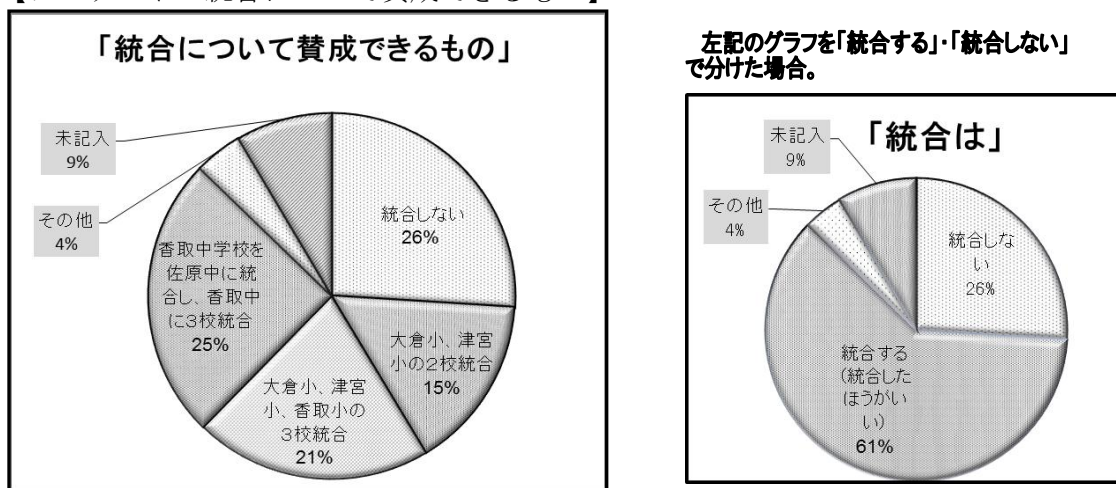
大倉小学校や津宮小学校の児童数が減少する事は進学先である香取中学校も生徒数が減少

していくことになる。生徒数の推計によると、香取中学校は10年後には全学年でクラス替えができなくなる。そのため、教員の人数が減り、現在の教育環境が維持できなくなってくる。この香取中学校の小規模化に対処するためにも、近隣の中学校への統合も考えなくてはならない。

また、同じ香取中学区の香取小学校については、児童数が100名程度で推移するが、大きく増加する事は見込めないと料される。このことから、香取中学校に進学する大倉小学校、津宮小学校、香取小学校の3校が統合することによって200名程度の児童数を確保する事ができる。

大倉小学校の統合について、地域の住民がどのように考えているかを知るため、アンケート調査を実施した。その結果、統合を選択したのは61%であり、その中でも、香取中学校を佐原中学校に統合し香取中学校に大倉小学校、津宮小学校、香取小学校を統合すると選択した割合が多かった。

【アンケート：統合について賛成できるもの】



水郷団地地区に大倉小学校と小見川北小学校の選択ができる調整区域を設ける事や大倉新田地区が新島小学校に通学することについては、アンケートの結果でも「地区の考えを尊重する」が多かったことから、水郷団地地区と大倉新田地区の就学先は再編統合が決定した時に改めて就学先についての意見を取りまとめる事とする。

以上の事から、大倉小学校の再編統合については、大倉小学校と津宮小学校の2校の統合ではなく、香取小学校も含めた3校統合を望む。このことにより、児童数が増え再度の統合の心配が無くなる。また、大倉小学校の進学先である香取中学校の小規模化を解消するためにも、近隣の佐原中学校へ統合し、その中学校跡地を統合小学校とすることも考えられる。

学校統合による保護者が抱く不安について、教育委員会は一つずつ丁寧に対処する事を希望する。

災害時においても、学校が安全安心な事は最優先されることであり、学校に対してや地域の衰退を防ぐためのインフラ整備をすることを望む。

## 小見川南小学校

(報告者及び宛名等は省略)

### 香取市立小見川南小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成25年3月14日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立小見川南小学校地域検討会議の検討、協議が終了しましたので、「香取市立小見川南小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

#### 記

#### 1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案 F ブロックの小見川南小学校が小見川東小学校へ統合する事については、反対とする。

#### 2. 検討経過

平成24年 2月 2日	地域検討会議に係る準備会	(実施プランについて)
平成24年 7月 27日	地域検討会議に係る準備会	(実施プランについて)
平成24年10月11日	地域説明会	
平成24年10月23日	第1回地域検討会議	(地域検討会議の設立について)
平成24年11月27日	理事会	
平成24年12月13日	第2回地域検討会議	(学校再編について)
平成25年 1月17日	理事会	(アンケート調査について)
平成25年 1月22日	?	保護者アンケート実施
平成25年 2月 1日		
平成25年 2月12日	理事会	(保護者アンケート結果について)
平成25年 2月22日	第3回地域検討会議	(保護者アンケート結果・意見表明及び集約)
平成25年 3月14日	理事会	(検討結果報告書について)

#### 3. 検討の概要

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案 F ブロック、小見川南小学校（以下「南小」という。）を小見川東小学校（以下「東小」という。）へ統合する計画について、以下のとおり検討協議を行った。

#### 【児童数】

南小の現在の児童数は48名であるが、平成30年度までの児童数の推計では、若干ではあるが現在より増加し60名前後となる。今後、複式学級の懸念があるものの、平成26年度以降は増置教員の対応により複式学級が解消される見込みである。小規模校には「きめ細かな指導が行いやすい」「一人ひとりの活動の場が多い」などのメリットがあり、また、教員の努力や地域の協力により活発な教育活動が行われている。過少規模校であるから統合するのではなく、地域の学校として残すべきである。

#### 【施設】

校舎や体育館においては、南小と東小の建設年度で大きな差はなく、共に耐震性は有している。東日本大震災以降、防災に対する意識が高まっており、南小は東小よりも高台に位置しており、万一の際も安心安全が確保されている。また、学校は教育の場だけではなく、地域の避難所としての役割も担っている。

**【地域コミュニティ】**

学校は地域のシンボリックな存在であり、地域住民の交流の場でもある。地域から学校が無くなることにより、若者が定住しなくなり、地域が過疎化し、地域の疲弊につながると思慮される。地域の活性化のためにも学校は残すべきである。

**【保護者アンケート】**

学校再編に係る保護者アンケート結果では東小への統合に「賛成」が23.5%であったが、「反対」が54.9%と半数以上であった。南小の良いと感じているところでは、「学校が家庭的な雰囲気の上級生と下級生の仲がよい」「学校行事など一人ひとりの児童の活躍する場が多い」「少人数学級により行き届いた指導が行われている」「地域と学校との関わりが深く、地域全体で支えられている」が回答者の多数であった。反対に、良くないと感じているところでは、「PTA活動など保護者一人あたりの負担が大きい」の回答が約半数であった。今後、保護者の負担軽減のため、地域ぐるみで学校運営を支援する事が望まれる。アンケート結果では、南小の教育環境は良く、地域には学校を残すべきであると思っている保護者が多い。

以上のことから、再編ブロック案Fブロックの南小と東小の統合は「反対」とする。

**小見川北小学校 利北分校**  
(報告者及び宛名等は省略)

**香取市立小見川北小学校利北分校学校再編に係る検討結果報告書**

平成25年5月31日

香取市立小見川北小学校利北分校の学校再編に係る検討結果が下記のとおりまとまりましたので報告します。

記

1 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランに掲げる利北分校の学校再編については、地域住民及び保護者の総意により小見川北小学校に統合することとする。なお、通学の安全を確保するためスクールバスによる通学とする。また、早期に子どもたちの教育環境の不均衡を是正するため、平成26年4月の統合を望む。

2 検討内容

- ①香取市学校等適正配置計画実施プランについて
- ②利北分校の児童数について
- ③通学手段について

3 検討協議の概要

平成25年5月25日に一ノ分目新田区民館において一ノ分目新田区常会を行い、そこで利北分校の学校再編について教育委員会からの説明があり、その後に検討協議を行った。

利北分校に通う児童数も年々減少しており、次代を担う子どもたちの教育環境を考えれば、少しでも早く統合し、教育環境の不均衡を是正させたい。

この地域は、旧小見川町の区域に属しており、小学校5・6年生になれば小見川北小に通学している。このため、新島小学校に統合ではなく、小見川北小学校に統合することが自然な流れである。しかし、将来的なことを考えれば、新島小学校にも通える選択肢は残すべきである。

小見川北小学校へ通学するための手段は、スクールバスとして登校時2便・下校時2便の運行とし、通学の安全には万全を期してもらいたい。

## 八都小学校

(報告者及び宛名等は省略)

## 香取市立八都小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成26年3月28日

教育委員会から提案のあった「山田地域の小学校5校を一つに統合する」ことについて、地域住民の代表者、保護者の代表者、学校教育関係者で組織する香取市立八都小学校地域検討会議を設置し、検討協議を行ってきた。

この度、その検討結果がまとまったので、香取市立八都小学校地域検討会議設置要綱第2条の規定に基づき下記のとおり報告する。

## 記

## 1. 検討結果

教育委員会が提案する八都小学校を含む山田地域の小学校5校を一つに統合することについては、小学校は地域と共に歩んできた歴史と伝統があり、また地域のシンボルでもあることから閉校となる事は惜しまれる。しかし、少子化の影響により児童数が減少することで現在の教育環境の維持が困難となる事が予想され、次代を担う子どもたちの事を最優先に考えて統合はせざるを得ない。なお、統合に伴い保護者が心配している事項についての解消に教育委員会は尽力されたい。

## 2. 検討経過

期 日	会 議 名	内 容 等
平成25年 6月18日	地域検討会議に係る準備会	学校再編・地域検討会議について
平成25年 7月30日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立、今後の進め方
平成25年 8月 6日	八都保育園保護者説明会	参加者：25名
平成25年 9月15日	地区説明会（高野区）	参加者：13名
平成25年 9月16日	地区説明会（小見区）	参加者：10名
平成25年 9月28日	地区説明会（吉野平区・米野井区）	参加者：吉野平19名・米野井10名
平成25年 9月29日	地区説明会（川上区・竹之内区）	参加者：川上14名・竹之内13名
平成25年10月18日	地区説明会（田部区）	参加者：9名
平成25年11月14日	第2回地域検討会議	地区説明会結果・アンケートの実施について
平成25年11月下旬～平成26年1月上旬	学校再編に関するアンケート実施	対象：地域全体 回収率：70.8%
平成26年 2月13日	第3回地域検討会議	アンケート結果、意見集約
平成26年 3月12日	地域検討会議 理事会	検討結果報告書について

## 3. 検討の概要

教育委員会の説明では市の人口は今後も減少し続け、15歳未満の人口は、平成22年の国勢調査時と比較して平成42年は半分近くに減少する推計である。八都小学校も平成31年度には児童数が100名を下回る推計である。

このため、将来にわたり再統合の必要が生じない「山田地域の小学校5校を一つに統合すること」が教育委員会から提案された。

今回、この提案について、八都小学校地域検討会議において、地区説明会や地域全体へアンケート調査を実施し、検討協議を重ねた。

#### 地区説明会

小学校の統合について、地域へ周知をするために、八都小学区7地区で説明会を実施した。(参加者数合計88名)

八都小学校や山田地域の小学校の児童数推移や、学校統合の必要性についての説明がされ、保護者や地域の方の意見や考えを直接伺った。説明会では統合した場合のスクールバスの運行や、小中一貫校についての質問、また、市の財政状況を考慮し、既存の施設を有効活用すべきではないかという意見があった。

#### アンケート

地区説明会の参加者が地域全体からすると多くなかったことや、学校統合について、多くの方の意見を取り込むため、地域全体へアンケート調査を実施した。

アンケートは、子どものいない世帯の回答割合が多かったが、山田地域の小学校5校を一つに統合する事については、賛成が50.2%、どちらとも言えないが35.2%、反対が7.9%であった。また、意見では、スクールバス等の通学方法についての課題や、人数が多くなることによるいじめを危惧すること等、5校が統合することについての心配する意見が寄せられた。

#### 検討協議総括

八都小学校は地域と共に歩み創立以来131年の歴史と伝統が築かれてきた。現在の小学校ではきめ細かな指導が行われており、また、児童一人ひとりが活発に活動をしている。しかしながら、少子化の影響で今後児童数は減少し、教育環境も変化していくことが予想される。学校は一定規模の集団で共に学び、支え合い、そして競い合いをすることが必要である。これからの時代を生きる子どもたちにはより多くの集団の中で知識や社会性を身につけてもらいたい。そのためには、教育環境の充実を図るうえで学校統合は必要であり、将来を見据え、山田地域の小学校5校を一つにすることが有効な手段と思慮する。地域から学校がなくなる惜別の思いはあるが、次代を担う子どもたちのことを最優先に考え学校統合は賛成とする。

ただし、学校統合により保護者が不安に思うことを教育委員会は誠意をもって対応してもらいたい。



## 八都第二小学校

(報告者及び宛名等は省略)

### 香取市立八都第二小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成24年11月20日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立八都第二小学校地域検討会議の検討、協議が終了しましたので、「香取市立八都第二小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

#### 記

#### 1. 検討結果

八都第二小学校をできる限り存続させることを基本とすることから、香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案（Gブロック）の八都小学校と八都第二小学校の再編統合については反対である。但し著しく児童数が減少して統合を行うのであれば、山田地域を一つの小学校区とし、小中一貫校の設置を望む。

#### 2. 検討経過

平成23年12月9日	地域検討会議に係る準備会	実施プランについて
平成24年2月24日	地域検討会議に係る準備会	意見交換会
平成24年4月24日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立について
平成24年6月5日	第2回地域検討会議	栗源小学校統合の状況について
平成24年6月18日～7月13日		保護者アンケート実施(就学前を含む)
平成24年7月7日	保護者説明会	
平成24年7月31日	第3回地域検討会議	保護者アンケート結果について
平成24年10月12日	第4回地域検討会議	各委員の意見表明
平成24年11月20日	第5回地域検討会議	地域検討会議報告書のまとめ

#### 3. 検討の概要

実施プラン再編ブロック案の八都小学校と八都第二小学校の学校再編について、両校が統合した場合の児童数の推計は、平成30年度については150人となり、市の掲げる許容規模（一校当たり120人）を確保することが出来るが、今後、ますます少子化が見込まれることから児童数の減少は避けられないものとする。このため、近い将来再び統合しなくてはならない時期が来ると思慮する。

保護者アンケートの結果、統合に対し70%の反対意見がある。主な理由として、小規模校のメリットである「少人数学級により行き届いた指導が行われている」「上級生と下級生の仲がよい」等が統合により、失われることに不安を感じている。

3. 1 1 東日本大震災以降、災害に対する意識が高まるなかで、八都第二小学校は高台に位置しており、立地条件も良く浸水被害に強い。また学校施設についても校舎・体育館共に耐震性を有している。

現在、仁良・神生住民自治協議会が立ち上がり、まちづくり計画を策定し、住みよいまちづくりに努めている。小学校は、単なる子どもたちの学び舎ではなく、地域コミュニティの核であり、シンボリックな存在でもある。この地域から学校が無くなることで、地域の過疎化が進展することが危惧される。

以上のことから、香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案（Gブロック）の八都小学校と八都第二小学校の再編統合については反対とする。今後、少子化がますます進行していくことが見込まれるなかで、統合について、広域的な視点に立ち、Gブロック全体（山田地域）を一つにまとめる必要がある。

## 府馬小学校

(報告者及び宛名等は省略)

## 香取市立府馬小学校地域検討会議 検討結果報告書

平成26年4月30日

教育委員会から提案のあった「山田地域の小学校5校を一つに統合する」ことについて、地域住民の代表者、保護者の代表者、学校教育関係者で組織する香取市立府馬小学校地域検討会議を設置し、地域説明会並びに学校再編に関するアンケート調査を学区内の全世帯に実施し、それらの結果を基に検討協議を行ってきた。

この度、その検討結果がまとまったので、香取市立府馬小学校地域検討会議設置要綱第2条の規定に基づき下記のとおり報告する。

## 記

## 1. 検討結果

教育委員会が提案する、府馬小学校を含む山田地域の小学校5校を一つに統合することについては、明治からの伝統ある小学校の閉校は惜しまれるが、少子化が進む中、次代を担う子ども達の事を最優先に考え、賛成とする。

なお、統合に伴い、保護者が心配している事項の解消に、教育委員会は尽力されたい。

## 2. 検討経過

期 日	会 議 名	内 容 等
平成25年 8月 7日	地域説明会	参加者：10名
平成25年 9月24日	地域検討会議に係る準備会	学校再編・地域検討会議について
平成25年10月23日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立、今後の進め方
平成25年12月15日	地域説明会	参加者：15名
平成25年12月18日	保護者説明会（府馬保育園）	参加者：90名
平成25年12月18日	第2回地域検討会議	地区説明会結果・アンケートの実施について
平成26年 1月29日 ～平成26年2月24日	学校再編に関するアンケート実施	対象：地域全体 回収率：79.6%
平成26年 3月14日	第3回地域検討会議	アンケート結果、意見集約
平成26年 4月22日	第4回地域検討会議	検討結果報告書について

## 3. 検討の概要

教育委員会の説明では、市の人口は今後も減少し、特に15歳未満の人口は平成22年の国勢調査時と比較して、平成42年は半分近くに減少する推計である。府馬小学校も平成28年度には、児童数が100名を下回る推計である。

このため、将来にわたり再統合の必要が生じない「山田地域の小学校5校を一つに統合すること」が、教育委員会から提案された。

今回、この提案について、府馬小学校地域検討会議において、説明会や地域全体へアンケート調査を実施し、検討協議を重ねた。

## 説明会

小学校の統合について、地域や保護者へ周知するために、説明会を実施した。

府馬小学校や山田地域の小学校の児童数推移と、学校統合の必要性等についての説明を教育委員会が行い、保護者や地域の方の意見や考えを直接伺った。

説明会では「学校が小規模化するとメリットより、デメリットが大きくなると思うので心配である。」、「保護者の意見が大事である。」、「明治からの伝統ある府馬小学校を地域に残すべきだ。」などの趣旨の意見があった。また、小中一貫校についての質問などがあった。

#### アンケート

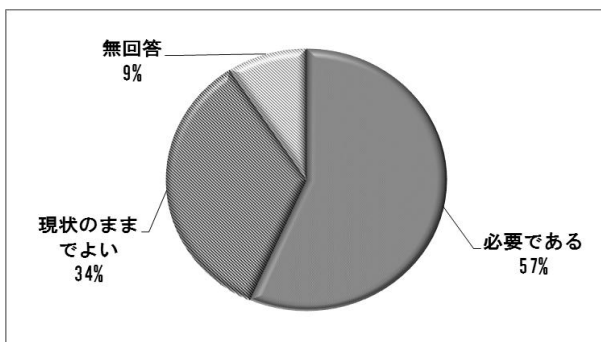
アンケート調査結果は、子どものいない世帯が58%と多かったが、統合は必要であるとの回答が57%であった。中学生以下のいる世帯では、66%が統合は必要であると回答しており、統合を支持する率が高い。

統合が必要と回答した世帯の内、山田地域の小学校5校を一つに統合する事については、賛成が65%、どちらとも言えないが27%、反対が6%であった。

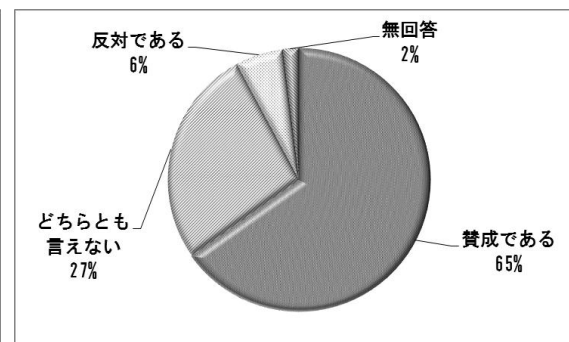
また、意見では、統合校の設置に伴い、既存の施設を有効利用することや、スクールバス等の通学方法についての課題など、5校の統合について心配する意見が寄せられた。

#### ※参考：アンケート結果

問：あなたは、学校統合は必要と思いますか。



問：山田地域の小学校5校を一つに再編する案についてどう思いますか。(統合が必要と答えた方のみ回答)



#### 検討協議総括

府馬小学校は創立以来、地域と共に歩み歴史と伝統が築かれてきた。しかしながら、少子化の影響で、児童数は減少することが見込まれる。多くの集団で共に学び、支え合い、切磋琢磨できる環境が、学校には必要である。

児童数が減少し続ける現状では、次代を担う子ども達の教育環境を最優先で考え、学校統合することは、やむを得ないものと思し、学校統合に賛成とする。また、将来を見据え、再統合の危惧がない山田地域の小学校5校を一つにすることが、最も有効な統合方法であると考えている。

ただし、学校統合により、保護者が心配に思うことに対し、教育委員会は誠意をもって対応することを望む。

## 第一山倉小学校

(報告者及び宛名等は省略)

## 香取市立第一山倉小学校学校再編に係る地域検討会議検討結果報告書

平成26年2月19日

教育委員会から提案のあった「山田地域の小学校5校を一つに再編する」ことについて、地域住民の代表者、保護者の代表者、学校教育関係者で組織する香取市立第一山倉小学校学校再編に係る地域検討会議を設置し、地区説明会並びに学校再編に関するアンケート調査を学区内の全世帯に行い、それらの結果を基に検討協議を行ってきた。

この度、その検討結果がまとまったので、香取市立第一山倉小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱第2条の規定に基づき下記のとおり報告する。

## 記

## 1 検討結果

教育委員会が提案する山田地域の小学校5校を一つに再編することについては、「賛成」とする。

## 2 検討協議経過

期 日	内 容	主な協議事項等
平成25年6月20日	地域検討会議に係る準備会	・香取市学校等適正配置計画実施プランについて ・地域検討会議の運営について
7月24日	第1回地域検討会議	・地域検討会議の設立について ・地域検討会議設置要綱の制定について ・役員を選出について ・学校再編に対する意見集約について
8月28日	山倉保育園保護者説明会	参加者22人
9月10日	地区説明会（鳩山区）	参加者 9人
9月11日	地区説明会（新里区）	参加者 4人
9月14日	地区説明会（小川区）	参加者13人
9月22日	地区説明会（桐谷区）	参加者10人
平成25年10月17日	第2回地域検討会議	・地区説明会及び保護者説明会の結果について ・アンケートについて
10月31日 ～ 12月9日	学校再編に関するアンケート調査	(対象) 学区内全世帯 回収率：76.4%
平成26年1月16日	第3回地域検討会議	・アンケート調査結果について ・地域検討会議意見集約について
2月19日	第4回地域検討会議	・地域検討会議検討結果報告書について

## 3 検討協議の概要

第一山倉小学校地域検討会議では、地域住民に第一山倉小学校が置かれている状況を理解してもらい、そのうえで統合の必要性を検討するため、地区説明会や就学前保護者説明会を開催した。また、地域の意見を広く把握するため学校再編に関するアンケート調査を

学区内各世帯に行い、これらの結果を参考に地域検討会議の意見をまとめた。

第一山倉小学校の児童数は年々減少している。平成31年度の児童数は66人となり、学級数は5学級で複式学級となる見込みである。教員数は学級数に応じて配置されており、複式学級では、一人の教員が二つの学年の授業を同時に行うことになり、児童・教員に対し負担が大きいとされている。また、一学年の児童数が減少することで、体育の授業での球技や音楽の授業での合奏に制約が生じ、教育環境の公平性が保てなくなる。更に、男女比の偏りや限られた人数のなかで6年間を過ごすことで、人間関係の固定化や成績の序列化が懸念される。少人数では、「目の行き届いたきめ細かな指導が行いやすい」「一人ひとりの活動の場が増える」などの良い点もあるが、教育は、どこでもだれもが同じ条件のもとに受けられるものでなければならず、教育環境の格差是正は急務である。

統合校の位置については、既存の学校施設の有効活用も含め、将来的に教育委員会が考えている小中一貫教育を行うために中学校に隣接することは有効ではあるが、全国的に小中一貫教育の取り組み事例が少ないなかでは慎重に進めるべきである。

統合に伴い通学距離が延伸されることになるため、スクールバスの運行は必要である。運行に際しては、保護者と十分協議し子どもの安全・安心の確保に努められたい。

学校統合は、子どもたちの教育環境を向上させるために行われるものである。次代を担う子どもたちには、多くの友と共に学び、切磋琢磨しながら、基礎・基本の学力の定着、人を思いやる心、そしてたくましく生きるための健康や体力をバランスよく身に付けてもらいたい。説明会やアンケート結果でも統合は賛成の意見が多く、早期の実現が望まれている。

以上から、山田地域の小学校の5校を一つに再編することは「賛成」とする。

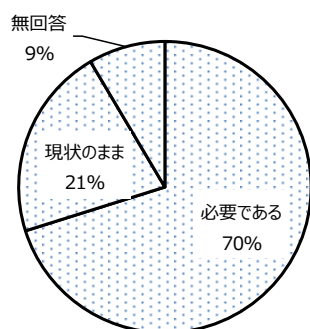
ただし、保護者は「いじめ」「スクールバスの運行」等に不安を抱いている。これらの不安の解消に教育委員会は尽力されたい。

また、小学校は、多くの地域の方から愛され、地域と共に歩んできた歴史と伝統がある。統合に伴い小学校が無くなることへの寂しさはあるが、統合校が先進的な取り組み等で他の模範となるような特色ある学校づくりをお願いする。

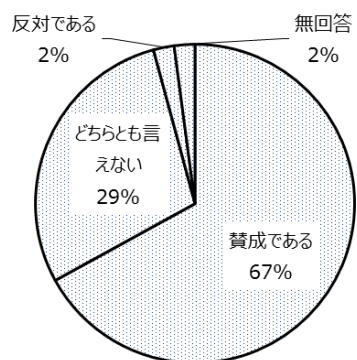
#### 【アンケート結果】

- ・アンケート対象者：学区内の全世帯（478世帯）
- ・アンケート実施期間：平成25年10月31日～12月9日
- ・アンケート回収率：76.4%

問 あなたは、学校統合は必要と思いますか。



問 山田地域の小学校5校を一つに再編する案についてどう思いますか。



**山倉小学校**

(報告者及び宛名等は省略)

**香取市立山倉小学校地域検討会議 検討結果報告書**

平成25年3月18日

香取市学校等適正配置計画実施プランに係る香取市立山倉小学校地域検討会議の検討協議が終了しましたので、「香取市立山倉小学校学校再編に係る地域検討会議設置要綱」第2条の規定により検討結果を報告します。

記

1. 検討結果

香取市学校等適正配置計画実施プランの再編ブロック案Gブロックについては反対とし、将来を見越して山田地区内の5小学校を一つに統合し、小中一貫校の設置を望む。

2. 検討経過

平成24年	7月	3日	地域説明会(山倉小学校)	
平成24年	10月	25日	地域検討会議に係る準備会	実施プランについて
平成24年	12月	6日	第1回地域検討会議	地域検討会議の設立並びに地域アンケート調査実施の決定
平成24年	12月	8日	保育園保護者説明会(山倉第二保育園)	
平成24年	12月	14日	理事会	地域アンケートの内容について
平成24年	12月	21日	保護者説明会(仲組集落センター)	
平成24年	12月	20日～		
平成25年	1月	6日	地域アンケート調査実施	
平成25年	2月	14日	理事会	地域アンケート調査結果について
平成25年	2月	19日	第2回地域検討会議	地域アンケート調査結果の報告並びに各委員の意見表明
平成25年	3月	11日	理事会	地域検討会議報告書(案)のまとめ
平成25年	3月	18日	第3回地域検討会議	地域検討会議報告書のまとめ

3. 検討の概要

実施プランの再編ブロック案Gブロックでは、山倉小学校を第一山倉小学校に統合し、許容規模の120人を確保するとしている。また、山倉地区の一部の三浦谷地域は、栗源小学校を通学校とし、統合先の第一山倉小学校を通学許可校とする調整区域制度を導入する計画としている。これらのことを含めて適正規模、適正配置について検討協議を行った。

学校施設等の状況では、山倉小学校と第一山倉小学校を比較すると学校の敷地面積、特別教室などを含めた校舎の整備状況並びに、体育館の面積などは、ほとんど変わらない。プールについては、第一山倉小学校は使用できない状況で、当校のプールを使用している。このことから、第一山倉小学校の優位性は認められない。

児童数については、香取市の少子化が進む中、山倉小学校と第一山倉小学校は共に減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予測される。仮に二校が統合しても、いずれ市の許容規模を下回り、再び統合が必要と想定される。

三浦谷地域の調整区域については、単に栗源小学校までの通学距離を理由とするもので、

地域の歴史や伝統に配慮しておらず、ひいては地域の分断、また、地域の弱体化にもつながる懸念がある。

地域アンケート結果では、第一山倉小学校との統合に「賛成」が 22.7%、「山倉小学校に統合」が 31.9%、「もっと大きな統合」が 36.8%であった。小学生以下がいる世帯では、「賛成」が 21.4%、「山倉小学校に統合」が 27.1%、「もっと大きな統合」が 47.1%であり、将来を見越した大きな統合を望む意見が約半数を占める結果であった。

また、山田地区の小学校 5 校を統合して一つの小学校を設置することについては、「賛成」が 54.6%、「反対」が 35.2%であり、小学生以下がいる世帯では、「賛成」が 62.9%、「反対」が 27.1%となり、賛成が 6 割強を占めている。

なお、教育委員会では、既存の学校施設の有効活用を基本としているが、小学校 5 校が一つになるのであれば、新設校も検討するとしている。

以上の事から、再編ブロック案 G ブロックについては反対とし、山田地区内の 5 小学校を一つに統合し、小中一貫校の設置を望む。これにより、統合に伴う地区間の不平等感を軽減し、将来にわたり再統合の心配がなくなり、クラス替えができるなど教育環境の増進が図れる。また、小中一貫校を整備することで、学力の向上などが期待できる。今後、小中一貫校の実現に向けて、G ブロックで検討する組織を早急に立ち上げることを要望する。



## 佐原第三中学校

(報告者及び宛名等は省略)

## 香取市立佐原第三中学校地域検討会議 検討結果報告書

平成26年10月28日

教育委員会から提案のあった「佐原第三中学校を佐原中学校へ統合する。」ということについて、地域住民の代表者、保護者の代表者、学校教育関係者で組織する香取市立佐原第三中学校地域検討会議を設置し、各立場で地域の意向の把握に努力し、検討協議を行ってきた。

この度、その検討結果がまとまったので、香取市立佐原第三中学校地域検討会議設置要綱第2条の規定に基づき下記のとおり報告する。

## 記

## 1. 検討結果

教育委員会が提案する、佐原第三中学校が佐原中学校へ統合することについては、地域のシンボルでもある中学校が無くなることは寂しく、また、残念である。しかし、少子化が進む中、次代を担う子ども達の事を一番に考え、佐原中学校へ統合することに、賛成とする。統合時期については平成28年4月1日とし、佐原第三中学校の全学年が一緒に統合することで合意に至った。

なお、統合に伴い通学方法や生徒のメンタルケア等、保護者が心配している事項の解消に、教育委員会は尽力されたい。

## 2. 検討経過

期 日	会 議 名	内 容 等
平成26年 5月27日	神南小学校地域検討会議	佐原第三中学校地域検討会議への代表者選出
平成26年 5月29日	福田小学校地域検討会議	佐原第三中学校地域検討会議への代表者選出
平成26年 6月17日	竟成小学校地域検討会議	佐原第三中学校地域検討会議への代表者選出
平成26年 7月24日	第1回地域検討会議	佐原第三中学校地域検討会議の設置と佐原中学校への統合について
平成26年 9月30日	第2回地域検討会議	佐原中学校への統合について
平成26年10月28日	地域検討会議理事会	検討結果報告書について

## 3. 検討の概要

教育委員会の説明では竟成小学区、福田小学区、神南小学区の3小学区での地域検討会議や説明会等で、佐原第三中学校の小規模化の課題が指摘されてきた。

平成25年度には、佐原第三中学校と竟成小学校、福田小学校、神南小学校のPTA役員で構成する「佐原第三中学校再編PTA懇談会」が設置され佐原第三中学校の学校再編について協議を行った。会議では、保護者説明会や保護者アンケートが実施され、保護者の意見が取りまとめられた。その結果は、保護者の要望として「佐原中学校へ速やかな統合を望む。」ということであった。

佐原第三中学校が佐原中学校へ統合することについて、保護者の意見が確認されたことから、今回、佐原第三中学区の地域の意見集約を行うため「佐原第三中学校地域

検討会議」を設置した。

佐原第三中学校地域検討会議を設置するにあたり、3小学区で各々地域検討会議を開催し、代表者6名を選出した。また、他に佐原第三中学校PTA役員3名と関係する学校長4名を加えて25名で佐原第三中学校地域検討会議を組織し、検討協議を重ねた。

統合について、地域説明会やアンケートを行い地域の意見を聞くべきではとの意見もあったが、今回の佐原第三中学校域検討会議の委員は、各小学区の地域から選出された代表者で構成され、委員は地区集会や学校行事などを活用して、地域の意向把握に努力してきたことなどから、この地域検討会議で検討結果をまとめることとした。

教育委員会によると、市の人口は今後も減少し、特に15歳未満の人口は平成22年の国勢調査時と比較して、平成42年には半分近くに減少する推計である。また、佐原第三中学校も今年度82人の生徒数が、平成38年度には65人に減少する推計であり、今後も学校の小規模化は更に進み、クラス替えのできない1学年1学級による学級編成が続くなど、教育環境としては好ましくない状況になっている。

統合について

佐原第三中学校は、地域や教員の努力もあり学校運営には、素晴らしいものがある。しかし、学校は既に小規模化しており部活動の種類も少なく、教育環境の改善が急務である。生徒数が減少し続ける現状では、次代を担う子どもの事を一番に考え、統合することは、やむを得ないものと思われ、佐原中学校へ統合することに賛成とする。

なお、栗源中学校への進学希望もあることから、これらについては、配慮されたい。

統合の時期について

統合までの準備期間について教育委員会は、スクールバスの準備や佐原中学校の受入体制を整えるためには、1年間は必要としている。また、統合までの1年間に佐原第三中学校も統合に向けて、佐原中学校との交流事業等を行うことで、統合時の生徒の心の負担をなるべく減らし、より円滑な統合ができるとし、統合の時期については、平成28年4月1日に統合ができるとの提案が、教育委員会からあった。

統合に際しては、現在の1年生が卒業してから統合して欲しいとの意見があり、これについて教育委員会は、保護者アンケートでも「統合はなるべく早く」の支持が、60%以上あり、すでに小規模化している状況からも、スピード感をもって対処する必要があるとしている。

統合の時期を延ばすことは、課題の先送りの面もあり、また、佐原第三中学区から他校へ指定校変更を行う生徒の増加による、更なる小規模化の課題もある。小規模化の現状を踏まえると、なるべく早い統合が望まれることから、教育委員会から提案のあった平成28年4月1日の統合に合意する。

なお、学校統合に伴いスクールバスの運行や生徒のメンタルケア等、保護者が心配に思うことに対し、教育委員会は誠意をもって対応されたい。